

# 土木學會選奨土木遺産

## 鬼怒橋

### 平成22年度認定

- 所在地：栃木県宇都宮市
- 竣工年：1931（昭和6）年
- 構造形式等：曲弦鋼プラットラス（下路）  
橋長：559.4 m（スパン 37.3 m×15 径間）  
幅員：6.4 m
- 管理者：宇都宮市

位置図



宇都宮市を貫流する鬼怒川に、初代の鬼怒橋が架設されたのは1915（大正4）年である。この旧橋は、秋田産の杉と欅を用いた長大木橋で、現橋に酷似した構造形式であった。1908（明治41）年に着工し、完成までに7年の歳月を要し、工費は23万余円であった。

その後、腐食や老朽化への対応から、現橋への架け替えが1930（昭和5）年に着手された。西欧風の形態を模倣しただけの洋式木橋から、材料および構造も近代工法による永久橋として、24万4千余円の工費をもって現在の鬼怒橋は翌1931（昭和6）年に竣工した。完成した鬼怒橋は、15連（スパン37.3m）、橋長559.4mの曲弦鋼プラットラス橋である。15連という多径間のトラス橋は、鋼トラスの道路橋では全国で3指に数えられる規模を誇っている。設計者は栃木県技師の松田文衛であり、また、上部桁は横河橋梁が製作した。



橋脚は、煉瓦円形ウェル2基の上に迫石により補強されたアーチ状の開口部をもつ切石積み構造であり、美観とともに堂々とした風格が漂う。また、橋門構上部には、4個の円形の開口部が左右対称にデザインされており、特徴的である。

鬼怒橋は、2011（平成23）年9月に竣工80周年を迎える。煉瓦と切石積みの橋脚の上に15連の曲弦トラスが連続する景観は圧巻であり、陽光にきらめく鬼怒川のせせらぎに映えて、今も壮麗な風情を醸し出している。

